

夏の会員総会

気づいていますか 子どもの SOS



来たる 8 月 29 日、ノボテルホテルにおいて、46 回卒業の弁護士野口善國氏の講演が行われます。同氏は 1965 年、当高校卒業後、東京大学文科一類に入学し、大学卒業後、法務省に入省されましたが、1980 年から弁護士として活躍されています。大学在学中から少年非行問題に関心を持ち、少年とともに学び、遊ぶという「友達活動」に専念し、団藤重光教授の少年法のゼミで学ぶとともに、東京家庭裁判所森田宗一判事の薫陶を受けました。また、ボランティアとして、横浜の花輪次郎氏が行っていた家庭裁判所の少年補導委託事業に関わり、少年の持つ「素晴らしい可能性」に目覚めたとのこと。

い可能性」に目覚めたとのこと。

弁護士になってからも、数々の少年事件の付添人、弁護人を引き受け、保護司としても少年の指導に当たってこられました。

神戸市須磨区で発生した連続児童殺傷事件、姫路で発生した 16 歳の少女少女によるタクシー運転手強盗殺人事件の弁護団長、宝塚で発生した女子中学生による放火殺傷事件の有識者調査委員なども務められました。これまでに接してきた少年は 300 名を超えています。

同氏は長年の経験から、少年事件を起こす少年たちは甘やかされて育ったのではなく、むしろ虐待されて育った子どもであり、少年らに必要なのは罰ではなく愛情であると訴え続けておられます。非行は、非行をしている少年の SOS と考えねばならないと言われるのです。

同氏は子どもの権利擁護やいじめ問題対策にも取り組まれており、近年大きな社会問題になっている、いじめ問題などにも触れていただきます。

お子様やお孫様をお持ちの会員には、大変参考になるお話が伺えると思いますので、ふるってご参加ください。

野口善國(のぐちよしくに)氏 プロフィール

履 歴

1946 年 5 月 16 日 東京生まれ
 1965 年 3 月 甲陽学院高等学校卒業
 1970 年 3 月 東京大学法学部卒業
 4 月 法務事務官(法務省矯正局上級職採用)
 1973 年 12 月 矯正研修所東京支所教官をもって退職
 1980 年 4 月 弁護士登録
 1988 年～1989 年度 神戸弁護士会少年問題対策委員長
 1989 年 「子どもが育つ家庭づくり」教育史料出版会 妻と共著
 1998 年 「それでも少年を罰しますか」共同通信社 著
 2004、2005 年度 兵庫県弁護士会人権擁護委員長
 2005 年 「歌を忘れたカナリヤたち」共同通信社 著
 2007 年 「非行－彷徨する若者、生の再構築に向けて」ゆまに書房 共著
 2009 年 「親をせめるな」教育史料出版会 著

現 在

兵庫県弁護士会 人権擁護委員
 同 子どもの権利委員
 神戸保護観察所保護司
 神戸拘置所篤志面接委員
 神戸地方法務局 人権擁護委員

中心的な活動

学生時代から少年非行の問題に取り組み、これまで 300 名以上の少年たちに接してきた。

会員総会の詳しいご案内を最終ページに掲載
 しておりますので、ぜひご覧ください。

甲
陽
だ
よ
り

発行所

〒662-0096 西宮市角石町 3-138

甲陽学院同窓会

発行人 西村貞一

印刷所

株式会社小西印刷所
西宮市今津西浜町 2 番 60 号
TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・木 10:00～16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail :

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

同窓会ホームページ

<http://www.koyogakuin-oba.jp>

白鹿
クラシックス
Hakushika
Classics

レストラン&カフェ

AM11:00～PM10:00

(ラストオーダー PM9:00)

明治時代の酒蔵を
シック&カジュアルな和空間に。

0798-35-0001

ミュージアムショップ

AM10:00～PM7:00

蔵元ならではの、
お酒にまつわるアイテムが大充実。

0798-35-0286

酒ミュージアム

白鹿記念酒造博物館

AM10:00～PM5:00

(入館は4時30分まで)

日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝承

0798-33-0008

西宮市鞍掛町(礼場筋・臨港線交差点)
■定休日/火曜日

会 務 報 告

平成27年4月28日に行われました同窓会役員総会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

1 平成26年度活動報告

会報編集委員会の森口委員長から、第90号を7月31日付で、第91号を3月15日付で発行したことが報告されました。

次に会員総会運営委員会について、昨年の8月30日に行われた会員総会について、213名の参加があったことや、収支(約27万円の支出超過)についての報告がありました。

甲陽ファンド管理委員会の泥委員長からは、平成26年度の募金総額が13,498,000円(故 田村真也先生の遺贈1,000万円を含む)であったこと、平成27年3月までの収入総額が、利息収入を含めて72,057,346円となっていること、現在まで延べ69名の在校生に一人年額20万円が支給されてきた実績などが報告されました。

会員交流委員会の揚野委員長から、昨年11月22日に行われた第2回会員交流会について、23名の参加があったことや、収支(約8,000円の繰越残)についての報告がありました。

会員名簿編集委員会の久委員長から、2017年発行予定の会員名簿について、進捗状況と今後のスケジュールについて報告がありました。

● 平成26年度 決算報告書 ●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	決算額	予算額	差引額	科 目	決算額	予算額	差 引 額
会 費	9,213,000	9,000,000	213,000	人 件 費	2,100,920	2,116,000	△ 15,080
年 会 費	1,340,000	1,300,000	40,000	月 手 当	1,536,000	1,536,000	0
終 身 会 費	1,403,000	1,300,000	103,000	夏 冬 手 当	320,000	320,000	0
新卒入会金	1,176,000	1,170,000	6,000	通 勤 費	244,920	260,000	△ 15,080
新卒年会費	2,744,000	2,730,000	14,000				
新卒終身会費	2,550,000	2,500,000	50,000	交 通 費	0	100,000	△ 100,000
				需 用 費	518,385	1,060,000	△ 541,615
会報広告料	60,000	60,000	0	通 信 費	350,506	400,000	△ 49,494
総会会費収入	1,149,500	1,300,000	△ 150,500	事務消耗品費	43,375	60,000	△ 16,625
利子収入	9,901	10,000	△ 99	備 品 費	0	100,000	△ 100,000
ストラップ収入	0	0	0	IT 関 係 費	124,504	500,000	△ 375,496
フォトフレーム	0	0	0				
雑 収 入	0	0	0	会 議 費	2,175,703	2,500,000	△ 324,297
寄 付 金	0	0	0	会員総会費	1,424,551	1,500,000	△ 75,449
				役員総会費	199,886	250,000	△ 50,114
収入合計	10,432,401	10,370,000	62,401	理事会費	170,187	250,000	△ 79,813
				委員会費	174,353	300,000	△ 125,647
特別預立金繰入	0	0	0	懇 談 会 費	206,726	200,000	6,726
基本金解約							
				事 業 費	3,310,589	3,690,000	△ 379,411
繰 越 金	12,741,359	12,741,359	0	甲陽だより	1,079,267	1,100,000	△ 20,733
				郵 送 料	1,421,971	1,500,000	△ 78,029
合 計	23,173,760	23,111,359	62,401	振 替 用 紙	91,149	140,000	△ 48,851
				封 筒	187,901	200,000	△ 12,099
◎H27年3月末日現在 現預金残高明細				記 念 品	359,758	400,000	△ 40,242
*三井住友銀行(普通預金)	4,777,743円			母校後援費	150,000	200,000	△ 50,000
*郵便局(普通預金)	315,343円			地域活動費	20,543	150,000	△ 129,457
* (振替通知票)	14,211,880円						
*三菱信託銀行(普通預金)	1,299,720円			雑 費	104,997	280,000	△ 175,003
*手持現金	121,324円			校 内 志	30,000	30,000	0
合 計	20,726,010円			慶弔その他	10,000	100,000	△ 90,000
甲陽F預かり金	5,762,844円			振 替 料	61,560	100,000	△ 38,440
合 計	14,963,166円			その他 雑経費	3,437	50,000	△ 46,563
				支出合計	8,210,594	9,746,000	△ 1,535,406
				特別預立金繰入	0	0	0
本日、会計監査の結果、 帳簿と金額に相違ないことを、ここに確認いたしました。							
監 事 二 宮 一 明 印				新基本金繰入	0	0	0
水 島 昇 印				予 備 費	0	13,364,539	△ 13,364,539
植 木 努 印							
				支出総計	8,210,594	23,110,539	△ 14,899,945
				収入総計	23,173,760		
				支出総計	8,210,594		
				翌年繰越金	14,963,166		

(単位：円)

2 平成26年度決算報告・監査報告

下に掲載の決算報告書が今西副会長から説明され、二宮監事、水島監事、植木監事からの監査報告を受けて、平成26年度決算が承認されました。

3 平成27年度活動方針と予算・役員移動

平成27年度の活動方針として、会報編集委員会からは従来通り年2回の会報発行の方針であること、会員総会運営委員会からは8月29日の会員総会の概要(詳細は本紙16頁)が述べられました。

会員交流委員会からは、来る10月25日(日)に司馬遼太郎記念館の見学を中心とした第3回会員交流会の告知がありました。

その上で、今西副会長より下に掲載の予算書の説明が行われ、承認されました。

最後に西村会長から、役員人事の異動について報告がありました。今西副会長の母校教頭就任に伴い、同氏が顧問、後任として、箱田専務理事が副会長、嶋吉常務理事が専務理事、溝口貴浩氏(74回生)が常務理事に委嘱されました。

● 平成27年度 予算書 ●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	H27年度	H26年度決算	H26年度予算	科 目	H27年度	H26年度決算	H26年度予算
会 費	9,100,000	9,213,000	9,000,000	人 件 費	2,116,000	2,100,920	2,116,000
年 会 費	1,300,000	1,340,000	1,300,000	月 手 当	1,536,000	1,536,000	1,536,000
終 身 会 費	1,300,000	1,403,000	1,300,000	夏 冬 手 当	320,000	320,000	320,000
新卒入会金	1,200,000	1,176,000	1,170,000	通 勤 費	260,000	244,920	260,000
新卒年会費	2,800,000	2,744,000	2,730,000				
新卒終身会費	2,500,000	2,550,000	2,500,000	交 通 費	100,000	0	100,000
				需 用 費	760,000	518,385	1,060,000
会報広告料	60,000	60,000	60,000	通 信 費	400,000	350,506	400,000
総会会費収入	1,300,000	1,149,500	1,300,000	事務消耗品費	60,000	43,375	60,000
会費交流会会費	200,000	0	0	備 品 費	100,000	0	100,000
利子収入	10,000	9,901	10,000	IT 関 係 費	200,000	124,504	500,000
ストラップ収入	0	0	0				
フォトフレーム	0	0	0	会 議 費	2,500,000	2,175,703	2,500,000
雑 収 入	0	0	0	会員総会費	1,500,000	1,424,551	1,500,000
寄 付 金	0	0	0	役員総会費	250,000	199,886	250,000
収入合計	10,670,000	10,432,401	10,370,000	理 事 会 費	250,000	170,187	250,000
				委員 会 費	300,000	174,353	300,000
				懇 談 会 費	200,000	206,726	200,000
				事 業 費	3,890,000	3,310,589	3,690,000
繰 越 金	14,963,166	12,741,359	12,741,359	甲陽だより	1,100,000	1,079,267	1,100,000
				郵 送 料	1,500,000	1,421,971	1,500,000
収入総計	25,633,166	23,173,760	23,111,359	振替用紙	140,000	91,149	140,000
				封 筒	200,000	187,901	200,000
				記 念 品	400,000	359,758	400,000
				母校後援費	200,000	150,000	200,000
				会員交流会	200,000	0	0
				地域活動費	150,000	20,543	150,000
				雑 費	280,000	104,997	280,000
				校 内 志	30,000	30,000	30,000
				慶弔その他	100,000	10,000	100,000
				振 替 料	100,000	61,560	100,000
				その他 雑経費	50,000	3,437	50,000
				支出合計	9,646,000	8,210,594	9,746,000
				特別預立金繰入	0	0	0
				新基本金繰入	10,000,000	0	0
				予 備 費	5,987,166	0	13,364,539
				支出総計	25,633,106	8,210,594	23,111,359

(単位：円)

甲陽ファンドにご協力を

平成27年1月1日以降5月31日までにファンドに醸金くださいました方々のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(平成26年12月31日以前に醸金された方は73号～91号に掲載しております。)

19回 山 崎 昇	38回 松 林 輝 芳	46回 堀 口 貞 茲	57回 芝 原 功
20回 川 島 茂	38回 三 木 則 夫	50回 岩 朝 央	57回 中 村 卓 司
24回 織 部 成 一	38回 佐 藤 康 人	51回 井 阪 博	57回 平 林 円
27回 光 野 昭	39回 加輪上 敏 彦	51回 内 田 邦 彦	62回 長 宅 芳 男
33回 大 幡 嘉 春	39回 榊 靖 夫	51回 近 藤 友 之	64回 岡 原 正 周
33回 二 宮 一 明	41回 鈴 木 敏 夫	51回 出 口 隆 一	68回 園 田 将 章
33回 森 下 哲 志	42回 青 井 秀 夫	51回 横 田 真 彰	69回 大 津 雅 亮
34回 江 隈 一 夫	43回 衣 笠 隆 之	52回 土 居 章 展	69回 長谷川 拓 也
34回 横 内 昭	45回 岡 本 定 行	52回 飛 田 圭 吾	71回 安 本 直 史
35回 尾 山 啓 二	45回 喜 田 勝治郎	54回 前 田 一	81回 山 脇 敬 博
35回 国 領 薫	45回 小 林 智 夫	55回 桜 井 太 郎	88回 青 木 和 哉
36回 田 村 眞 也	45回 西 村 貞 一	55回 樋 爪 安 洋	96回 後 藤 優 友
38回 小 山 修 二	46回 入 谷 泰 生	56回 坂 本 智 彦	96回生育友会

【醸金方法】

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
 - (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
- (2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

平成27年度 同窓会役員

平成 27 年度の甲陽学院同窓会の役員は以下のとおりです。

役 職	氏 名	回生	役 職	氏 名	回生
名誉会長	有 田 和 男	31	専務理事	嶋 吉 由 喬	62
会 長	西 村 貞 一	45	常務理事	中 野 忠 夫	44
副 会 長	宗 田 久 雄	高商 1		西 村 公 男	46
	泥 光 重	39		山 崎 仁 嗣	47
	揚 野 寛	45		河 内 厚 郎	52
	辰 野 久 夫	51		吉 井 友 実	54
	箱 田 光 信	57		森 口 匡	55
相 談 役	平 田 豊	22		久 義 裕	62
顧 問	横 内 昭	34		梅 谷 幸 弘	67
	尾 山 啓 二	35		溝 口 貴 浩	74
	中 村 貞 三	35	監 事	二 宮 一 明	33
	守 殿 貞 夫	41		水 島 昇	49
	宮 崎 恒 彰	42		植 木 努	65
	大 川 貴 史	55			
	今 西 昭	57			

終身会費納付額設定表(平成27年4月1日～平成28年3月31日まで)

96回～90回	30,000円	76回	37,000円	62回	23,000円
89回	50,000円	75回	36,000円	61回	22,000円
88回	49,000円	74回	35,000円	60回	21,000円
87回	48,000円	73回	34,000円	59回	20,000円
86回	47,000円	72回	33,000円	58回	19,000円
85回	46,000円	71回	32,000円	57回	18,000円
84回	45,000円	70回	31,000円	56回	17,000円
83回	44,000円	69回	30,000円	55回	16,000円
82回	43,000円	68回	29,000円	54回	15,000円
81回	42,000円	67回	28,000円	53回	14,000円
80回	41,000円	66回	27,000円	52回	13,000円
79回	40,000円	65回	26,000円	51回	12,000円
78回	39,000円	64回	25,000円	50回	11,000円
77回	38,000円	63回	24,000円	49回～	10,000円

学校だより



お世話になりました

この春、妙島秋男副校長と川崎州廣先生が甲陽学院をご退職になりました。妙島先生は国語科教諭として1979年に着任、その後2000年に教頭、2009年に副校長に就任されました。川崎先生は英語科教諭として1992年に着任されました。長い間ありがとうございました。なお、前教頭の大川貴史先生が副校長に就任され、今西昭先生が教頭に就任されました。

退職された2人の先生方からご寄稿いただきましたので以下に掲載いたします。

退職のご挨拶

妙島 秋男



小さい子供のころのように、時間がゆったりと流れています。街の中のいろんなところにいろんな花が咲いて美しい季節です。追い立てられないで、自分の時間の速さで動けるのが、とても新鮮です。退職して一か月が過ぎました。

長編小説を読み終えたような気分です。どんな小説かと説明するのは難しいのですが、感じとして、ヌーヴォーロマン風とでも言えるでしょうか。とても複雑ですが、人間に対する興味に導かれていて、登場人物が皆生き生きと自己主張していて、全体として美しいモザイクになっているようで、読みごたえのある面白い小説だったと思います。人間嫌いになることがなかった点だけを取りあげても、ずいぶん恵まれていた幸せな年月だったのだと思います。

今まで同じ場で同じ時を過ごして下さった皆様に心から感謝申し上げます。

十八年間の担任としての時間、九年間の教頭としての時間、六年間の副校長としての時間、それぞれにたくさんの思い出があります。最後の数年間、『源氏物語』について語る授業ができたことも、国語の教師としては、とても楽しい体験でした。

西田幾多郎が「個人あって経験あるにあらず、経験あって個人あるのである」と言っています。甲陽学院の教師であった私しか今の私にはないのですが、だからこそなのか、それでもなおなのか、つぎの小説は、いかに短編であろうとも、同じ主人公の続編などではなく、全く新しい物語でありたいと願っています。

それでは、皆様お健やかにごきげんよろしく。

英語教師への道

川崎 州廣



半世紀前の、小さな冒険について書きます。当時大学はストライキで、私は学生運動に身を投じるほど志が高くもなく、読書にバイトにと、無為な生活を送っており、そんななかで、一年間外国を見てやろうと思うようになりました。

当時、外国に持ち出すことができるのは\$1000と2万円でしたので、おのずと貧乏旅行にならざるを得ませんでした。ロシアを通してヨーロッパへ行くルートを選びました。横浜から船、鉄道、飛行機でモスクワに行き、その後、列車でフィンランドに入りました。中学の語学研修と同レベルのホテルで、今回の旅行の中で唯一衣食住の保証された2週間でした。

ヘルシンキに着くと、町の綺麗さと物価の高さに驚きました。毎日牛乳とパンときゅうりで過ごしました。泊まるのはYHでした。移動はヒッチハイクで、お金を減らさないために、町の中ではとにかく歩くしかありませんでした。フィンランドから1か月ほどかかってやっとドイツのハンブルグまで到着しました。途中スウェーデンでは軍の移動中の車に乗せてもらったのはいいんですが、途中でMPの車とすれ違い、乗せてくれた兵隊さんは、私を下すと大急ぎで走り去っていきました。また、ドイツのアウトバーンでヒッチをしたときはスポーツカーが止まってくれたのですが、アウトバーンではヒッチをしてはいけないと説教されました。

とりあえずドイツまでは来ましたが、ヒッチはとても効率が悪く、移動するだけでエネルギーと時間を（お金も）使ってしまうように思え、英国行きのフェリーに乗りました。お金を減らさないで、ヨーロッパを味わうために、ロンドンのレストランで皿洗いのアルバイトを見つけ、夕方から英語の学校へ通いました。レストランのキッチンでは皿を洗い、ポテトの皮をむき、鶏の毛をむしり、スペイン人のシェフとイタリア人のウェ이터・ウェイトレスと働きました。一度、シェフに「コメが炊けるか」と訊かれ、日本人は毎日コメを食べてる。任せると意気込んで鍋いっぱいコメを炊いたのですが、大目玉をくらってしまいました。イギリスの米はインディカ米で、できるだけバサバサになるように噴きこぼして炊くのだが、19歳の少年は無知でした。また、英語学校では、試験では高得点を取り、レベルの高いクラスに入れられ、疎外感を感じながら座っていました。

その後、イギリスを出て、大陸に渡りました。今回はヒッチはやめて、ユーレイルパスを日本から送ってもらっていて、西ヨーロッパを列車で駆け回りました。有効期限が切れた後、ギリシアへ渡り、陸路でトルコ、イラン、アフガニスタン、パキスタンを通り、インドまで行きました。インド滞在中に印パ戦争が勃発し、空港が閉鎖され、しばらく滞在して、空港が開くと、飛行機で帰国しました。伊丹に着いたときは、所持金が僅かでした。帰国後、英語を本気で勉強したくなり、それが英語教師への最初の1歩でした。



学校だより



学校だより



創立記念音楽会

去る 4 月 29 日(水・祝)に本学院高等学校講堂に於いて、創立記念音楽会が行われました。今年は、ピアノ奏者の小林道夫氏とお仲間のヴァイオリン奏者の岡山潔氏をお招きしました。小林氏は本学院の創立記念音楽会にお越しいただくのはおよそ 40 年ぶり 2 回目で、岡山氏は神戸市室内合奏団の音楽監督を務められています。小林氏はバッハ演奏や解釈のスペシャリストとして有名ですが、今回は「モーツァルトの夕べ」と題しオール・モーツァルト・プログラムの演奏会となりました。

プログラムの 1 曲目は「ヴァイオリン伴奏付きのピアノ・ソナタ ニ長調 KV29」ということで、二人揃っての登場かと思いきや小林氏がマイクを片手にお一人で舞台に現れ満場の聴衆を一瞬で引き込むお話から始まりました。モーツァルトが 5 才 3 ヶ月の時に作曲した曲をはじめ、時折交えられるこれもまた引き込まれそうなほどの美しいピアノの音とモーツァルトが幼少期に影響を受けた音楽家たちなどについて話され、小林氏本人が書かれたプログラムの曲目解説にさらに彩りが添えられました。

子供には簡単で大人には難しいモーツァルト、とオープニングでのお話にあったのですが、岡山氏との丁寧で繊細なヴァイオリンのアンサンブルは、素晴らしく抑制され、穏やかな音(自らピアノとは格闘しない)の中に知的な味わいが溢れていたように感じたのは私だけだったのでしょうか。何より鍵盤楽器であるピアノの各音の響きがクレッシェンドのごとく伸びていくことに驚きました。

2 曲のピアノとヴァイオリンのソナタの後は、変ロ長調のピアノ・ソナタ、アダージョ、ロンドと演奏会では取り上げられる機会の少ない曲の魅力に触れることができました。

プログラム最後の「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ イ長調 KV526」は、解説文にモーツァルトが最後に到達した境地を示すソナタとあったのですが、氏の音楽に対する冷静でかつ真摯な姿勢とモーツァルトを演奏する喜びを感じ取ることが出来たように思います。

アンコールのモーツァルトの「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ ト長調 KV301」の第 2 楽章まで、あたたかな気持ちで幸せな午後のひとときを過ごすことができました。(溝口 貴浩 記)



中学校講堂見納め会

甲陽学院は 2017 年に創立百周年を迎えます。これを記念して 2016 年 4 月から約 1 年かけ、中学校講堂を建て替える運びとなりました。つきましては下記日時に見納め会を計画しております。ご希望の方はご予約下さい。詳細は次号でお伝え致します。

日時：2016 年 4 月 10 日(日)
午前 10 時～午後 2 時

(ご自由にご覧いただけるようにしたいと思っておりますので、ご予約等は不要です。)



学校だより

学校だより



宮川先生のこと

甲陽学院中学校・高等学校教頭
今西 昭 (57 回)

この春、妙島副校長が定年をもってご勇退されました。その後任の副校長には大川教頭が就任され、大川先生の後任として私が教頭の重責を負うことになりました。これまで同窓会の皆様には暖かいご指導を賜わってまいりましたが、今後は倍旧のご助言・ご

鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

高等学校の職員室で、慣れない教頭席に座っていますと、時折宮川秀一先生のことを思い出します。宮川先生は、私が甲陽高校に在学していたときの教頭先生でした。多くの同窓生の方がご存知のように、それは厳しい先生でした。座右の銘は「己に厳しく」で、教頭という職にありながら、眠る時間を惜しんでご専門の歴史学研究に打ち込んでおられました。私のようなだらしのない人間には、宮川先生のような生き方はとても真似できませんが、ご都合主義が氾濫し、便利や快楽への欲望が全開となってしまった現下の情勢を見ると、宮川先生のあの緊張感あふれる佇まいを忘れないでいたいと思うのです。

1973年に私は甲陽中学から甲陽高校に進学しましたが、その年に校長が林連一先生から小河清磨先生に代わり、中学の教頭に村上千秋先生、高校の教頭に宮川先生が就任されたのです。前年に一部生徒による高校職員室封鎖事件などの「紛争」があり、その時にも宮川先生は「紛争」解決の為にずいぶんと尽力されたようでした。

宮川先生のご専門は日本近代史とりわけ明治期の学事と兵事でしたが、甲陽高校では世界史の授業をご担当されました。先生はとても早口で講義をされますので、「ハプスブルク家」とおっしゃるのですが、我々生徒には「ハプスルゲ」と聞こえます。そんなことから先生のことを「ハプスルゲ」とあだ名する悪友もありました。私は宮川先生の授業のファンでした。ある日の授業で「諸君は、日露戦争は日本が勝った戦争だと思っているかもしれないけれど、それは大間違いですよ。」と聞き、私は目から鱗が落ちる思いがしました。後年、先生にそのことを申し上げると、「ああ、あれはハッターです。」と笑っておられました。

宮川先生の世界史の講義は、戦後歴史学の主流であった史的唯物論をベースとするものでした。経済構造という土台が歴史の原動力であるという考え方に触れ、私はしだいに経済学に興味を持ち始めていました。そして高

校3年生の秋、「16世紀の宗教改革は神の前の万人の平等を説き、18世紀の市民革命は法の前の万人の平等を説いた。そしてこれから求められるのは経済の前の万人の平等である。」とのお話を授業で伺って、すっかり感動してしまい、経済学部への進学を決めたのでした。

大学卒業後民間企業で勤めていた私に宮川先生からお電話があったのは、1981年の秋でした。「突然のことだけど来年の4月に甲陽を辞めることになった。ついては自分の後任の社会科教師として甲陽で勤めないか」というお誘いなのでした。「身に余る光栄」とはこのことでしょう。敬愛する宮川先生から直々に声を掛けていただくなんて。欣喜雀躍としてサラリーマンから教員へ転職しようと思いましたが、不安がありました。私は大学時代に十分学問に打ち込んだとはいえ、学部卒業で大学院での研究経験ありません。甲陽で授業をする資格があるのだろうか。そのことを宮川先生に申し上げると、即座に「これからです。勉強はこれから一生です。」とおっしゃいました。その言葉を肝に銘じて、教員生活を重ねてきたつもりです。

「私は日の丸を心から美しいと思う。しかし、わが国の領空を外国(米国)の戦闘機が自由に飛び回っているような今の日本では、日の丸を掲揚したくない。」刺激的な宮川先生のお言葉です。「親米保守」などという論理矛盾を許さない構えがあります。

「(苦楽園の)新校舎建設で何よりもうれしかったのは、専用の講堂をとの願いが直ちに実現したことでした。講堂と体育館とを兼用させるような戦後の簡便主義の教育行政が、今日教育荒廃をまねいた元凶だと信じているからです。」これは宮川先生が甲陽を去られる時に残された文章の一部です。簡便主義やご都合主義を徹底的に批判された方でした。教育に携わる者にとって、今の時代にあってこそ心すべき戒めです。

「教室に備え付けの掛時計がないのは不便だ。前方黒板の上に設置してほしい。」との声をよく聞きます。そんなとき、私は宮川先生の言葉を思い出します。「授業中、生徒が時計を見ながら先生の講義を聴くとは何ごとか!」。今の時代、宮川先生がご存命なら憤慨されることのオンパレードでしょう。

便利優先、物欲肯定、私利追求が跋扈するこんな世の中で、微力な私が教頭の職務を全うすることができるのか、不安で一杯です。ただ、職員室の片隅の慣れない教頭席で宮川先生のことを思うとき、ちょっと背中を押されたような気がするのです。



学校だより

学校だより



第62回 甲 関 戦

昨年8月26日(火)、第62回目となる甲陽学院中学校と関西学院中学部の交歓競技会が開催されました。関学が昨年度から完全共学制になり、設備の関係で夏休み中に両校の会場に分かれて各競技を行うという形に変更されて初めての開催となりました。また、従来行われていた9種目の競技の内、バレーボールについては、関学バレーボール部が女子のみの部になったため、オープン競技としての実施となりました。

対戦結果は下記の表のように甲陽の3勝、関学の5勝となり、2年ぶりに関学が総合優勝しました。

今年は第63回目となりますが、昨年と同様8月26日(水)に両校の会場に分かれて実施される予定です。

	陸上競技	野球	サッカー	卓球	テニス	水泳	バスケットボール	剣道
甲陽学院	15	6	0	☆6	3	16	☆61	☆2
関西学院	☆33	☆8	☆7	3	☆4	☆40	31	1



バスケットボール



バレーボール(オープン競技)

中学校 校 外 学 習

中学校では総合学習の一環として、例年新学期の4月に校外学習を実施しています。

今年は4月21日(火)に実施され、各学年の行先は次の通りでした。

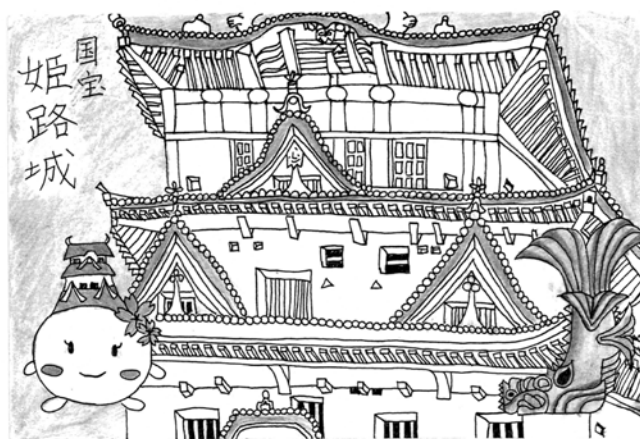
第1学年 姫路セントラルパークと姫路城

第2学年 神戸市立森林植物園

第3学年 金閣寺、仁和寺、京都水族館

.....

第1学年102回生は、午前中姫路セントラルパークの猛獣エリアをバスで見学し、姫路城三の丸広場に移動してクラス毎に記念写真をとった後、班ごとに昼食、そして今春平成の大修理を終えたばかりの純白に輝く国宝姫路城のスケッチをしました。



1年E組花嶋隆成君の作品

ご案内 高等学校の音展は

9月20日(日)です！

高等学校の「音楽と展覧の会」は例年「秋分の日」に実施していますが、今年は祝日が続く関係で、9月20日(日)に実施いたします。母校の生徒たちが創意工夫をこらし、持てるパワーを結集して作り上げていく母校最大の伝統ある行事です。今の高校生がどんなことを考え、どのように行動するのか、そんな現代青年のありのままの姿に触れることのできる貴重な機会でもあります。日頃母校にあまり御縁のない方も久しぶりに後輩たちの様子をご覧になってはいかがでしょうか。ご来場を心よりお待ちしております。

なお、中学校の音展は例年通り11月3日(火)の「文化の日」に実施いたします。



学校だより

リレーエッセー

連綿と続く甲陽との繋がり

田辺 征夫 (44回)



私は、永年勤めた(独法)国立文化財機構奈良文化財研究所(もとは奈良国立文化財研究所)を2011年9月に退職して、現在は、奈良県特別顧問および奈良県立大学の特任教授として、週一日、考古学の特別講義を持っています。また、これも週一日ですが、(公財)大阪府文化財センターの理事長として勤務しています。

考古学を一生の仕事として今日に来ている次第ですが、実際には考古学だけに沈潜できる状況ではありませんでしたし、今もそうです。そもそもは最初に就職した奈良国立文化財研究所という組織が、日本の文化財保護行政に資する研究所という位置づけの組織であったことが根底にあるのでしょう。

しかし、それだけではなく、一つには、私が就職した1960年代後半から日本が高度経済成長期に入ってしまったという社会的背景があります。各地で大きな開発が相次ぎ、遺跡の事前発掘調査体制が年々大きくなっていき、遺跡の保存問題への関心が高まっていますが、考古学を専攻するものとして無関係ではあり得なかったのです。加えて個人的にも、人事異動によって奈良市教育委員会や文化庁で文化財保護行政を担当することになったり、東京国立博物館で博物館展示の仕事をするようになったり、必然的にその範囲が広がらざるを得なかったからです。

もともと甲陽時代に高井悌三郎先生の薫陶を受け、かつ橋本久先輩(41回、京都大学考古学研究会創設者であり大阪経済法科大学名誉教授)の指導を受け、何を間違ったか考古学の道に入ってしまったのですが、まずは食えないだろうという大方のご心配に反し、まさに高度経済成長の恩恵を受け、あろう事か慶應義塾大学文学部を卒業後、文化庁傘下の奈良国立文化財研究所に就職でき、国家公務員として地道にこつこつと過ごすことになりました。

しかしその後もずっと甲陽との縁が切れなかったようで、とくに奈文研には、私と同じく高井先生や宮川秀一先生の薫陶を受けた後輩諸氏がなぜか続々と入ってきて、一時期はさながら甲陽閥のようでした。大阪大学や奈良大学の教授を務められた東野治之さん(46回)、奈良女子大学教授の館野和己さん(50回)の二人は、ともに日本古代史の権威として有名です。そして考古学の小林謙一さん(48回)。奈文研の国際担当の部長を務めたあとACCUN奈良(ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所)の研修部長としてアジア各地での人材育成のための研修を主導されました。古代武器武具についての優れた研究者でもあります。

比較的最近の退職直前のことですが、甲陽慶應ともクラブの後輩である久義裕さん(62回)のセッティングで、検事総長をつとめられた樋渡利秋さん(45回)と再会する機会がありました。彼と奈良県知事荒井正吾さんが東大時代の同級生だったことは、知事と仕事上のつきあい

の多い私にも驚きでした。樋渡さんとは、甲陽時代に地歴部員として高井先生が掘られていた伊丹廃寺の発掘と一緒に参加しています。

また、私たちがホームカミング学年であった一昨年と同窓会で再会した田村恒一さん(44回)は、(公財)大阪府文化財センターの所在する堺市の副市長を務めておられることがわかり、先日も堺市が力を入れている百舌鳥古市古墳群の世界遺産登録に向けての熱い思いをうかがいました。私も、文化庁をはじめいくつかの世界遺産関係の委員をしていることからその思いを共有したところです。それにしても、今、あらためて甲陽との繋がりを感じています。

そこで世界遺産のことに触れてみたいと思いますが、いろいろな意味で、最初の頃からは様相が変わってきているようです。日本で最初の世界遺産が誕生したのは、1993年のことで、法隆寺、姫路城の文化遺産と屋久島、白神山地の自然遺産、計4件でした。その頃は、私の記憶では、どこも登録に積極的でなく、むしろどちらかと言えば、史跡指定などの国内法に加えてさらに規制が強くなるのではないかという懸念があり、はっきりいって歓迎されていませんでした。

それが、一旦、登録されると、知名度が飛躍的に高まり集客力がまったく違うことがわかったので、地域活性化の目玉として、われもわれもと手を上げる自治体が出てきたのです。これを受けて文化庁は、各地から登録希望資産を募ることになり、かなりの数の希望が出てきました。

ところが、具合悪いことには、ちょうどその頃からユネスコの審査が厳しくなり、現在では、毎年1国1件の登録に絞られるようになってしまいました。ユネスコの審査が厳しくなった背景にはいろいろあるようです。大きな理由の一つとして、アンコールワットがよく引き合いに出されますが、観光資源としての開発があまりに激しく、資産としての価値が損なわれる事例が増え始めたことにあるようです。なんと言っても、世界遺産登録の基本は世界的な視野に立った重要な文化、歴史や自然遺産の適切な保護が根幹にありますから。

世界遺産登録が、本来の遺産保護の観点を超えて観光資源や地域活性化の目玉として活用される傾向は日本だけではなく世界的な現象で、そのための人気が高まっていることも事実です。日本でも、以前は、文化財や史跡というと金や手間のかかる面倒なもので、とくに地域開発にとってはどちらかと言えば邪魔な存在として扱われることが多かったと思います。世界遺産人気が、遺跡や文化財と言った歴史遺産が地域活性化の目玉として活用できるという眼を開かせたことは間違いありません。その限りにおいては肯定的に評価できるかもしれません。ここで世界遺産をめぐる諸問題を語ることはしませんが、今問題となっている近代化遺産のように、本来、文化、歴史や自然遺産としての価値を基本にすべきところに、残念ながら政治問題が絡み始めている現状をみると、今後の世界遺産のあり方に一抹の不安を抱くのは、私一人だけではないでしょう。

会員だより

24回 甲陽出てから 70 年

「甲陽出てから70年」私たち24回生は終戦の年昭和20年3月旧制甲陽中学を卒業しましたが、卒業式はありませんでした。

終戦の日8月15日を迎えたのは母校ではなく皆バラバラ、予科練を志願して海軍航空隊に配属され特攻命令を今日か明日かと待っていた者、憧れの上級校に進学したものの、そこでも又勤労動員に従事していた者、卒業後も同じ職場で勤労動員を続けさせられていた者などなど。

あれから70年、気が付けば私たちも大正15年生れが数えで卒寿(90)昭和2年生れが満で(88)米寿を迎えることとなりました。それじゃーお互いのお祝いをしようじゃないかと。

平成27年5月15日、宝塚ホテルで東京組3名関西組4名が集まり楽しいお祝い会をやってきました。

最初2時間の予定が3時間になっても終わらず、ひとまず校歌を斉唱して、改めてコーヒールームで延長1時間談笑し、お互いに「長生きせーよ」と言い合って解散しました。

私たちの仲間も大半居なくなり寂しくなりました。ほとんどが戦中戦後の復興と繁栄を縁の下で支えてきた者ばかりです。今はお蔭様で平和な年金生活を送っています。

私たちの中には「ノーベル賞」や「人間国宝」を貰える人はいませんでした。がそれは優秀な甲陽後輩諸君に期待して報告を終わります。

がんばれ甲陽健児

甲陽24回生 橘友会

出席者 中川経治 宮代顕二 大沢保之

綿谷幸次良 近久史郎 中島欣一 織部成一 (出稿者)



36回 同窓会

毎年開催しております「甲陽36回生同窓会」を今年も去る平成27年5月28日にJR芦屋駅前のホテル竹園芦屋で開催しました。関東在住のメンバーを含む23名が出席し、最初に昨年の会以降亡くなられた田村眞也君、上村浩郎君の冥福を祈り黙祷し、続いて大阪大学名誉教授上田重晴君の「高齢者の肺炎とその予防ワクチン」についての講演を全員が後期高齢者であり、身につまされて熱心に聴きました。その後何時もの通り各人の近況報告等を含め和気あいあいと話合いの時間を過ごしました。ただ母校で教鞭を執られ、同窓会の役員もされていた田村眞也君がこの席に居られないのが寂しく感じられました。と同時に彼が甲陽ファンに多額の醸金をされた事を聞き一同感心した次第です。また出席者全員に西村善明君より緑化が進行している尼崎の工業団地で採れた美味しい蜂蜜が配られました。

翌日、山下房雄君の紹介により宝塚ゴルフ倶楽部旧コースでゴルフ会を開催、7名が参加しました。

同窓会出席者は、石原、稲松、上田、大野(順)、岡居、酒井、新庄、杉野、但井、高谷、田中、竹内、中川、西村、原、原納、船越、北條、星野(彰)、丸野、矢田、山下、吉田。

ゴルフ会参加者は石原、酒井、中川、北條、星野(彰)、矢田、山下。(幹事 北條、矢田、山下)



来れ!! 新制1期・2期・3期諸君に告ぐ。

高校卒業 60 周年記念連続 3 年間 最終 合同同窓会

最終回開催年月日：2015年10月24日(土) PM12:30～15:00

場所：都ホテルニューアルカイク(阪神尼崎よりR2に出て右折、文化センター東側)

各回幹事：34回 奈良節雄・水野 寛・吉田忠二
 35回 沢井 陽・三木正之・広本 健
 36回 原 健三・西村善明・杉野修二
 代表幹事：35回 尾山啓二

52回 学年同窓会

『甲陽だより』には投稿していなかったかもしれませんが、気が付けば、52 回生は毎年正月 2 日に、阪神地区にて同窓会を開催しています。地元の根来氏がながらく幹事役を一手に引き受けて開催されていましたが、平成 21 年より事務方幹事を担当する者も参加して運営されています。

平成 24 年、伊丹市の「長寿蔵」で開催した同窓会には数学 & B 組担当の山田宏先生もはるばる長野県からご出席いただきました。

52 回生の中学入学と同時に柔道・体育の先生となられた静利一郎先生も例年出席されています。平成 24 年度に還暦を迎えた我々は二度目の勤務者、大学に戻られた方、毎日が日曜日で自由を謳歌している方、元々の自営業の方、様々です。

大学より関西を離れてそのまま、日本国内や海外でまだ現役で同窓会に出席されてない方もおられます。関東在住の方は『東京甲陽会』を適宜開催されていると聞いています。

毎年同窓会を開催しなくても、「隔年」とか「数年ごとの」開催ではどうなの……との声が聞かれます。がしかし、毎年正月の 2 日には、阪神間のどこかで開催している事に重きをおいています。

平成 25 年新神戸オリエンタルホテル（還暦同窓会）、26 年・27 年は高校跡のノボテル甲子園で開催しました。

28 年 1 月 2 日、場所は未定ですが皆様方の協力を得て開催予定です。是非ともふるってご参集ください。

27 年 1 月 2 日 出席者

A 組：石原吉孝、加藤尚浩、高原宏幸、武田信一郎、根来秀明、野床種保、藤原雅彦

B 組：阿生山年宏、越智高敏、小原進、齋藤由幸、四宮景龍、竹村仁、富尾公一、秦良彰、福原康二、山岸正和

C 組：北前雅人、月川耕治、土居章展、浜野博次、山崎浩

D 組：石本一郎、井上博夫、松本茂

（幹事団）根来秀明、藤原雅彦、越智高敏

27 年度進行担当：四宮景龍

文責：越智高敏



■あて名ラベルの記号の見方

既に終身会費や年会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振込用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成27年5月31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H20年度

♪	卒	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	終
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

②枠内には、順に平成元年度、2 年度、…27 年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院を卒業するまでの年
0	当該年度分の年会費を未納			卒	その年の 3 月に卒業

従いまして、下段に含まれる 0 の個数 × 年会費 が、未納の年会費となります。同封の振込用紙にてお支払い下さい。

★H 元年以降にご卒業の方は、卒業時から 7 年分の年会費を予めお納め頂いております。

次の 2 つの例をご参照下さい。

♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	卒	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0											

H21 年以降は未納です。未納分をお納め下さい。

♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	卒					
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					

H20 年 3 月にご卒業、さらに 1 年分の年会費を頂いたので H28 年度まで納付しておられます。

◎尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

第4回 関西甲陽ネット開催

今回は6月20日(土)、朝日放送本社(大阪・福島)で開催しました。天候にも恵まれ、45回から93回まで43名が、施設見学、講演、そして懇親会を楽しみました。その日、受付を終えた参加者は、番組出演者のように番組打ち合わせ室とタレントロビーで待機。まず、1階にある大きなスタジオ2つと美術倉庫を見学しました。これらのスタジオでは、土曜の生放送番組が数時間前に終わったばかり。「探偵!ナイトスクープ」などでは番組観覧者も入る一番大きなAスタジオは、「正義のミカタ」の片づけも終わってガランとしていましたが、Bスタジオは「旅サラダ」のセットが残されたままでした。美術倉庫にはテレビでよくみる小道具も。

その後、一同は見晴らしのよい大会議室に移動し、和田省一相談役(46回)の講演を聞きました。和田さんは、70年入社後すぐにラジオ番組の新企画に加わり「おはようパーソナリティ」を担当(番組内で呼ばれていた「酋長」というニックネームを覚えている参加者もありました)、テレビ報道に移られてからは「サンデープロジェクト」編集長などを歴任され、その後は朝日放送やテレビ朝日の経営に関わってこられました。「激変するメディア環境と放送局の今後の役割」がテーマでしたが、まさに「激変」という言葉がふさわしく、技術革新による放送(テレビ)と通信(インターネット)の融合が引き起こす、アメリカ・ケーブルテレビ業界の再編、黒船のようなアメリカ動画配信会社の日本進出…、さらに、あまりにも数多くの会社名(しかもその大半は海外の若い企業)とその合従連衡に戸惑われた方もおられたでしょう。和田さんからは、インターネットがもたらす放送業界の変化のほか、「M-1グランプリ」誕生の秘話や「サンデープロジェクト」の舞台裏など、ご自身の体験談も語られ、参加者の関心を大いに集めていました。89年から10年まで続いた「サンデープロジェクト」は、政治とテレビの関係を激変させた番組といってよく、その中心におられた和田さんから小泉純一郎や橋下徹、あるいは現在の政権とテレビの関係について自省的な問題提起がなされた点が、興味深く感じられました。

講演の後は再びスタジオ見学。「ANNスーパーJチャンネル」が本番直前だったNスタジオ、お馴染みのエレクトーンが置かれた「おはよう朝日です」のセットと本番前で準備万端だった「虎バン」の機材が同居するC

スタジオを経て13階のラジオスタジオへ。テレビスタジオではアナウンサーがどのようにニュース原稿を読むかについての解説がなされ、ラジオスタジオでは、野球中継と音楽番組が生中継される現場を見ることもできました。また、「よなよな…」で使われる一番大きなラジオスタジオにあった、キダ・タロー愛用のピアノに感動する参加者も。と、ここまで読んで「テレビ=娯楽」というイメージを強めてしまった方もおられるかもしれませんが、災害対策や報道といった公共性の高いものへの誇りと備えも、和田さんの講演やスタジオなど随所で感じられました。例えば、関西各局が必ず全国生放送を行うこと(例えば土曜朝の時間)によって、首都圏の放送局が大災害で機能停止になったとしても、関西から全国に正確な情報が迅速に発信できるように日々準備しているそうです。今回の企画は放送局の使命やあり方、さらには視聴者の立場についても考えるいい機会になったのではないのでしょうか。和田さんはじめ上田慶行(総務:67回)、吉本貴雄(編成:76回)、芝聡(制作:83回)各氏のご尽力に御礼申し上げます。次回は今冬を予定しております。どうぞお楽しみに。(75回・辛島)

(<http://kansai-koyo.net/>)



サッカー部 OB 会

5 月 16 日（土）神奈川県川崎市にある商船三井（株）グラウンドにて、昨年に引き続き甲陽学院サッカー部の第二回 OB 会を開催しました。第一部は、同社との親善試合。昨年は全員 50 歳以上で 13 名集まりましたが、今年は 20 代の三名 吉井君、白井君（87 回）、野田君（88 回）も参加して総勢 18 名。前会長の 36 回中村 貞三さんが見守る中、現 OB 会長の 43 回の南 聡さんも浣刺とプレーされました。同年代のメンバーを揃えていただいた商船三井との試合は、3 - 2 で惜敗しましたが、所々に中高時代の息の合ったプレーもあり、サッカーを楽しむことが出来ました。

第二部は、町田駅近くのレストランで第一部のみで帰った方や第二部のみ参加された方で、総勢 17 名での懇親会でした。秋に行われる灘校との定期戦とともに東西イベントの柱にしていきたい、開催日は日曜日の方が良いのでは、等意見が出されました。来年も同時期に、同時期帯（関西からの日帰り参加が可能）に開催する予定です。中高のサッカー部に少しの期間でも在籍されていた方は、ご都合を合わせていただき、奮ってご参加ください。第一、二部のみの参加も大歓迎です。

（記 世話人 56 回 門田 英稔）



サッカー部定期戦のお知らせ

第 63 回甲陽灘サッカー部定期戦は、今年度は、10 月 4 日（日）甲陽学院中学校において開催されることとなりました。試合時間進行は例年どおりの予定で、9 時開会式のあと中学校、高等学校、OB 戦（12 時ごろ）の順で実施します。多数の OB の皆様の御参加をお願いします。また、OB 戦の後、両校 OB の懇親会も開催されますので、ふるって御参加くださいますようご案内申し上げます。懇親会の詳細は下記の通りです。

懇親会会費 5,000 円、ノボテル甲子園 2 階愛宕の間に、15:00 開会、試合会場より送迎バスが運行します。
ノボテル甲子園 阪神甲子園駅すぐ TEL0798-48-1111

第 16 回 甲陽学院同窓会ゴルフコンペ結果報告

平成 27 年 4 月 26 日（日）、快晴の春の日差しのもと、第 16 回甲陽学院同窓会ゴルフコンペが、武庫ノ台 GC（神戸市北区）にて開催されました。午前 8 時 30 分のティーオフとともに、各組が元気よくスタートしていきましました。ホールアウト後は、クラブハウスにて表彰式と懇親会を行い、今回は、参加者全員に 1 分間スピーチをお願いし、内容を掲載することになりました。

〔1 分間スピーチ〕敬称略 順不同

濱名正洋（55 回）

今日は、またブービーメーカーになりまして申し訳ございませんでした。普段の不摂生と運動不足を痛感しました。また練習しまして、「不老長寿」は無理なので、「不良長寿」をめざして頑張りたいと思います。

大山 司（56 回）

今日は良い天気で楽しかったです。このような会に出ると、自分の年齢がわかってとても為になったと思います。

南 聡（43 回）

今日は快晴で、スコアの言い訳ができないような、すばらしい日和でした。前半は良かったものの、後半はいつもの実力が出て、このような成績でした。でも、とても楽しい一日でした。

加登 豊（53 回）

初めて参加させていただきます。今、同志社大学のビジネス研究科に勤めています。社会人対象で、日本一授業料が高いビジネススクールですが、皆様や皆様のご子息の年代で興味をお持ちの方は、是非お越しください。

吉藤賢了（43 回）

このコンペには、去年の春から参加させていただいてます。初参加の春に優勝し、秋は 3 位で、もう一回優勝したいと思いましたが出来ませんでした。今回は、7 位でラッキーセブン賞（キャディーバック）を頂き有難うございました。

西村盾彦（55 回）

今日は、かみさんに「必ず、賞品を持って帰ってきてね」と言われましたが、お蔭様で、ニアピン賞をとれました。この「ニアピン賞」と書いてあるのが値打ちで、ただのゴルフボールではない事を、家に帰ってから家族に自慢します。

吉田忠二（34 回）

今日、前半のスコアは 45 で調子が良いなと思っていましたが、後半に油断しまして、欲が出て 15 位ということでした。ありがとうございました。

坂本和則（55 回）

急遽参加できるようになりました。突然の参加となり

ましたが、エントリーいただき、ありがとうございます。次回また頑張って練習してきます。今後も出来るだけ参加したいと思いますので、よろしくお願いします。

杉原喬生 (33 回)

いつも得意なホールしかだめなのですが、今日は、ショートホールでパーが一つと、逆に 8 打もありこれがラーキースコア (隠しホール) となり、三田肉 (ブービー賞品) が頂けました。ありがとうございます。

石川義明 (元校長)

7 年前まで校長をしていました石川です。今回は第 16 回であります。去年の秋以外 15 回とも参加しています。ゴルフという競技は、一度一緒にすると性格がわかると思います。今回優勝された坪井様は、以前も一緒に回り精悍なゴルフをしていました。ありがとうございました。

二宮一明 (33 回)

今回は下から 3 番目、前回は最下位、前々回はブービーと、ここ 3 回とも「下から 3 番以内ばかり」になっていますので、次回は、もうちょっと上位になるよう努力してまいります。

信谷宗平 (56 回)

4 回か 5 回目の参加となります。56 回生はゴルフをやるメンバーが沢山いますので、声をかけ、なるべく多くの同期生が参加していくようにしたいと思います。

西村善明 (36 回)

クラブ握って 55 年くらいになるのですが、まだ一度もホールインワンをしていません。出来ればこの会で達成したいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。

石渡秀二 (56 回)

サッカー部 OB です。クラブは、テイラーメード派で、バッグだけはテイラーメードではないので買い換えたいと思います。目標は 100 をきることです。

本井敏雄 (51 回)

「お前は練習したらうまくなる」と、言われ続け 30 年が過ぎてしまいました。「クラブはキャロウェイ、ボールはファウエイ」の状態です。

岩井博行 (49 回)

初参加です。他のコンペでは、大体が最年長で最後に講評などさせられてきましたが、本コンペでは真ん中ぐらいで安心しています。午前中は、坪井先輩 西村先輩に圧倒され、お二人は、昼からも、ますますお元気で、歳をとっても、もっと頑張らなければいけないと思いました。

吉井友実 (54 回)

第 3 位と、16 回目での最高順位となりました、あり

がありがとうございました。いつも拙い幹事ですが、今後ともよろしくお願いします。

綿谷 卓 (60 回)

行き届かない幹事ですが、今回は参加人数も少なく、幹事も努力しますが、出席されている皆様も、この会にどんどん OB を誘って参加をお願いします。

坪井弘光 (35 回)

連覇 (15、16 回) させていただき有難うございました。家を出る時に「今日は何のコンペ」と聞かれ、「すき焼きのコンペ」と言って家を出ました。「肉をもらえるコンペ」と思われましたが、そのとおりになり、我が家はハッピーな夕食が出来ることになり有難うございました。スコアはいつも 90 前後ですが、今回はバーディーやダボなど浮き沈みがあるのが、逆にダブルペリアルールで奏功し、優勝できたと思います。ありがとうございました。

[コンペ上位入賞者] スコア (NET) HC (W ペリア) GROSS (OUT/IN)

優勝：坪井弘光 (35 回卒) 72.0 18.0 90 (49/41)

2 位：加登 豊 (53 回卒) 73.4 15.6 89 (46/43)

3 位：吉井友実 (54 回卒) 73.6 20.4 94 (44/50)

[参加者 (敬称略、カッコ内は卒業回)]

石川義明 (元校長) 杉原喬生 (33) 二宮一明 (33) 吉田忠二 (34) 坪井弘光 (35) 西村善明 (36) 吉藤賢了 (43) 南 聡 (43) 岩井博行 (49) 本井敏雄 (51) 加登 豊 (53) 吉井友実 (54) 坂本和則 (55) 西村盾彦 (55) 濱名正洋 (55) 大山 司 (56) 石渡秀二 (56) 信谷宗平 (56) 綿谷 卓 (60)

[ご案内]

今回は下記の通り平成 27 年 11 月 1 日 (日) に実施します。甲陽学院 OB であればどなたでも参加できます。御夫婦、親子などファミリー参加也大歓迎です。ご希望の方はゴルフ会までお気軽にご連絡ください。

〈第 17 回甲陽学院同窓会ゴルフコンペ実施概要〉

日 時：平成 27 年 11 月 1 日 (日) 午前 8 時集合 午前 8 時 30 分スタート

場 所：武庫ノ台 GC (神戸市北区：西宮北 IC より R176 経由約 15 分)

連絡先：甲陽学院同窓会ゴルフ会事務局

中村貞三 (35 回卒)

E-mail: teisan@d4.dion.ne.jp

吉井友実 (54 回卒)

E-mail: yoshii517@hcc6.bai.ne.jp

中山裕雄 (60 回卒)

E-mail: hiroo-na@d5.dion.ne.jp

<文責 60 回 綿谷 卓>

「司馬遼太郎記念館」を訪ね、 国民作家の真髓を感じ、秋の味覚で交流を深める 甲陽学院同窓会 第3回会員交流会 10月25日(日)のご案内

甲陽学院同窓会の会員の皆様には、ますますご活躍のことと存じます。まもなく迎える甲陽学院の創立 100 周年を見通して、同窓会活動の活性化のため、一昨年から、社会勉強や世代を超えた交流を図る場とする会員交流会を設けました。

今年の第3回会員交流会は、NHKの大河ドラマ「花燃ゆ」は吉田松陰の妹が主人公になっていることもあり、大阪が生んだ国民作家の司馬遼太郎氏が、時代を動かした吉田松陰や高杉晋作達の青春像を描いた「世に棲む日日」をテーマに企画展開催中の司馬遼太郎記念館の見学会を企画しました。司馬未亡人の福田みどりさんが甲陽創立者の伊賀駒吉郎先生が甲陽の前に創立された大阪樟蔭の出身というご縁があります。見学会の後、懇親会で交流を深めます。ふるってご参加をください。

〈記〉

「司馬遼太郎記念館」を訪ね国民作家の真髓を感じ、秋の味覚で交流を深める

- 開催日 10月25日(日)
- 集 合 午後1時15分 近鉄・大阪難波駅改札口前
- 交 通 近鉄奈良線に乗り、8つ目の「八戸ノ里」で下車し徒歩で記念館へ
- 見 学 司馬遼太郎記念館
(大阪府東大阪市下小阪3-11-18 TEL 06-6726-3860)にて上村洋行館長(元産経新聞記者)のお話を聞いた後、下記「中津江」にて館長夫妻を交えて会員交流会を催します。
- 懇親会 中津江(東大阪市御厨栄町2-9-31 TEL 06-6787-7080)
- 会 費 6,000円 ○定員 先着24名
- 申込先 甲陽学院同窓会事務局 「会員交流 見学会」係宛
葉書～FAX～メールのいずれかにて
〒662-0096 西宮市角石町3番138号
FAX 0798(71)4890
メール fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp
貴方の氏名、回生～卒年、住所、電話、アドレスを記入してお申し込みください。



司馬遼太郎記念館
内観(写真左)
外観(写真下)



告 知 板

「甲陽史学会のお知らせ」

平成 27 年 8 月 29 日 (土) 午前 10 時より正午まで、ノボテル甲子園ホテルにて、「甲陽史学会」を開催いたします。報告者は元甲陽学院教諭山内英正さん、テーマは「柿本人麻呂・山部赤人の信仰と伝統—歌聖は如何にして誕生し、変容していったか—」です。同窓生の皆さんのお越しをお待ちしています。

参加者希望者は橋本 (42 回) までご連絡ください。

(TEL/FAX 0798-47-8574)

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した 96 回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。

また、これに伴い、卒業後 7 年以内の方 (卒業時に 7 年分の年会費を前納) でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額は P.3 の表をご覧ください。

☆ 「会報・甲陽だより」の原稿募集

* 次号・第 93 号は、来年 2 月末頃に発行を予定しています。

* 「会員だより (同期会・クラス会)」・「運動部・文化部の OB 会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・などのご投稿をお待ちしています。

* 原稿の締切日は、来年 1 月 10 日です。

訃 報

(平成 27 年 5 月 31 日現在)

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

谷元 和 三	大村 須賀 男	松崎 厚	武内 清雄	宗像 康雄	菅原 寛和	今井 靖博	長原 良明	大澤 安正	米沢 成晃	井川 登	栄 郁夫	五味 博喜	煎本 博一	丸山 喬一郎	榊原 貞彦	犬伏 哲郎	山田 陽一	安田 一雄	須田 博二	笹井 清	濱野 正男
(25 回)	(25 回)	(24 回)	(24 回)	(23 回)	(23 回)	(23 回)	(22 回)	(22 回)	(21 回)	(21 回)	(20 回)	(20 回)	(20 回)	(19 回)	(19 回)	(17 回)	(16 回)	(15 回)	(14 回)	(12 回)	(11 回)
13 年 1 月 13 日	14 年 7 月 24 日	15 年 5 月 13 日	15 年 3 月 16 日	14 年 11 月 8 日	15 年 2 月 15 日	14 年 11 月 9 日	15 年 1 月 31 日	15 年 6 月 16 日	08 年 8 月 15 日	15 年 1 月 4 日	15 年 2 月 6 日	14 年 2 月 12 日	13 年 5 月 7 日	14 年 11 月 23 日	14 年 12 月 23 日	13 年 9 月	14 年 12 月 27 日	15 年 2 月 23 日	98 年 7 月 31 日	95 年 8 月 7 日	14 年 5 月 20 日

藤澤 舜一	平林 久雄	村上 吉章	真鍋 有信	米田 敏雄	岡本 英夫	中山 猛	田中 祥直	井関 憲二	池田 正明	藤山 利行	長峯 治男	吉野 光久	伊藤 重英	逸見 真二	矢野 篤太郎	飯田 裕朗	濱田 康熙	辰 卓	上村 浩郎	井上 進	林 三知夫	寺本 恒一郎	森 竜二	北村 基夫
(工経)	(高商 4)	(高商 3)	(高商 3)	(高商 2)	(49 回)	(47 回)	(47 回)	(47 回)	(46 回)	(43 回)	(43 回)	(41 回)	(41 回)	(38 回)	(36 回)	(36 回)	(35 回)	(35 回)	(35 回)	(33 回)	(32 回)	(31 回)	(29 回)	(27 回)
14 年 10 月 14 日	14 年 5 月 11 日	14 年 5 月	14 年	15 年 1 月 30 日	14 年 11 月 2 日	12 年 6 月 29 日	06 年 6 月 14 日	08 年 8 月 27 日	12 年 3 月 8 日	15 年 1 月 3 日	10 年 3 月 4 日	14 年 5 月 20 日	12 年 11 月 18 日	15 年 3 月 18 日	14 年 6 月 18 日	15 年 1 月 8 日	15 年 5 月 28 日	14 年 12 月 25 日	15 年 2 月 9 日	14 年 11 月 15 日	15 年 3 月 1 日	11 年 11 月 12 日	15 年 5 月 9 日	15 年 2 月 13 日

夏の会員総会にみんなで参加しよう

8月29日(土) 13時～16時30分 於:ノボテル甲子園

夏恒例の今年の会員総会は次のような要領にて開催いたします。同窓の先輩、同輩、後輩、友人、知人
お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。ご家族の同伴も歓迎です。

<第1部> 式典と講演会

(13時～14時30分)

演 題 「気づいていますか 子どものSOS」

講 師 野口善國氏 (弁護士、46 回卒)

詳しくは第1面をご覧ください。

はじめ、ドブロ、エレキギター、ベースギターに50年を超す演奏歴のベテラン達をバックに『古き佳き、STRAIGHT COUNTRY』をお楽しみ下さい。音楽に酔いしれた後は、懇親会。恩師の先生方を囲んで、今度はご寄贈賜りました清酒「白鹿」やサントリーのビール・ウイスキーに酔いながら楽しい一時をお過ごし下さい。

<第2部> 静先生オンステージと懇親会

(14時45分～16時30分)

1965年から2008年まで母校で教鞭をとられた静利一郎先生は、東京オリンピック候補選手だったと言うほどの柔道の大家ですが、もう一つの顔としてカントリーミュージシャンとしてもプロ級の腕前の持ち主です。今回は、静先生に3人のお仲間を加えた「フルハウス」に演奏をお願いしました。懐かしい静先生のボーカルとギターを



今回の主役、ホームカミング学年は、46回(卒業50年)、61回(卒業35年)、71回(卒業25年)です。舞台への登壇、記念品の贈呈を予定していますので、是非ご参加ください。

なお、昨年に引き続き今回も総司会会は高橋知裕さんをお願いしています。読売テレビ「奥様情報BOX」や「日本直販テレビショッピング」などテレビでご活躍中の女性アナウンサーです。ご期待ください。



今すぐご予約を！ 夏の会員総会申込方法

日 時 平成 27 年 8 月 29 日 (土)

13 時～16 時 30 分

会 場 ノボテル甲子園 TEL 0798-48-1111

西宮市甲子園高潮町 3 - 20

阪神電車甲子園駅西口下車すぐ

会 費 一般会員 6,500 円 (当日会費)

学生会員 2,000 円 (当日会費)

同伴家族 2,000 円 (当日会費)

新卒者 (平成 27 年 3 月卒業96回生) 無料

申込方法 同封の振込用紙で、8月20日(木)までに会費をお振込み下さい。

または8月24日(月)までに事務局へ参加のご予約を下さい。(葉書、電話、FAX、メールにて)

ご予約の場合は特別割引として、一般会員は6,000円、学生・同伴家族は1,500円とさせていただきます。

※当日の料理・名札の準備がありますので、できるだけ事前振込かご予約をお願いいたします。

申込先・問い合わせ

甲陽学院同窓会事務局

〒662-0096 西宮市角石町 3-138

TEL 0798-71-4888 (月・水・木・金 10時～16時)

FAX 0798-71-4890

メール fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

※8月12日～19日は母校の夏期閉鎖期間となるため同窓会事務局も閉鎖となります。

☆まだまだ暑い頃ですので、当日はカジュアルな服装でご参加ください。

☆平成15年の役員総会の決議で、新卒者以外の無料会員の制度が廃止になりました。上記の会費で運営いたしたく、ご了承下さいますようお願い申し上げます。